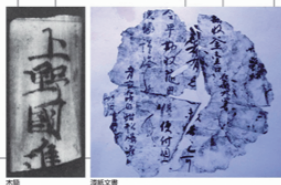




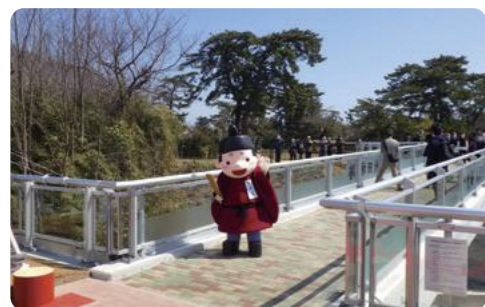
## 秋田城跡発掘調査年表

Chronological Table of Akita Fort Ruins Discovery

西暦	和暦	事項
2012年	24年	大小路地区に外郭南門跡を調査(10次調査)。城の正門をついに発見。
2008年	20年	徳山地区に外郭西門跡を調査(9次調査)。東西の門の位置が非対称であったことが判明。
1998年	10年	外郭東門と堀ノ木地区水洗面舎の復元が完成。
1994年	6年	古代水洗面舎(トイ)跡を調査。ちゅう木水鏡(トイ)と「ハレトベ」や寄居土師瓦が出土。
1993年	5年	東門と堀ノ木地区の復元を開始。
1992年	4年	秋田城跡発掘調査推進委員の発足。
1990年	2年	調査事務所に赤外分光測定器を導入。漆器文書などに解説「秋田城跡の中継地」の秋田城(前)の調査に着手。秋田城跡の発掘調査の歴史を振り返る。血涙定めの結果、男の胎児の胎頭で血液型B型と判明。サイレンが響かれた文書を調査。
1989年	平成元年	秋田城跡の整備基本計画をまとめる。
1987年	62年	秋田城跡の整備基本計画をまとめる。
1985年	60年	政府の南東角部分を発掘。政府の南北の長さ約70mと判明。発掘された土から、粟野が約1000年前の稲を栽培していたことが判明。
1984年	59年	堀ノ木地区の古土層の調査を始める。沼の畔から木製の人形、馬形などが出土。祭りやまじないの調査結果、沼は秋田公園に復元。政府内に土師を調査。正統の土師が出土していることが判明。
1982年	57年	初めて漆器文書を発掘。政府の北東部を調査。
1981年	56年	堀ノ木地区の井戸跡(平安の井)を調査。
1978年	53年	堀ノ木地区の井戸跡(平安の井)の中心から、天平6年(724年)と刻まれた木簡が出土。
1972年	47年	市が秋田城跡調査事務所を設立し、本格的な発掘調査を開始。
1966年	41年	史跡保存のための土地公有化(買い上げ)事業開始。
1959年	34年	国営調査(昭和37年)堀ノ木地区に堀ノ木地区の建物群。大田地区(堀ノ木)に堀ノ木地区の建物群。
1958年	33年	秋田城跡の北東部(堀ノ木地区)周辺を調査。市が国営調査(昭和37年)指定後初の本格調査。
1939年	昭和14年	国の史跡に指定される。
1924年	大正13年	内務省の保管と関係者が初めて組織的な調査を行い、秋田城跡の範囲が寺内丘陵全域に及ぶことが判明。



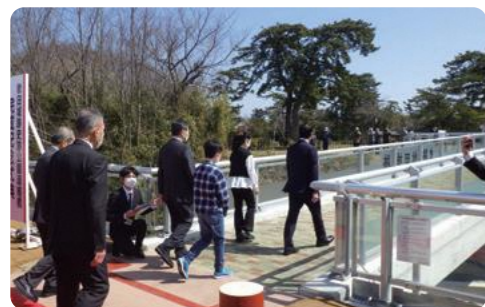
## 史跡公園連絡橋およびAR・VRアプリ 令和4年4月9日完成



■ 史跡公園連絡橋



■ AR・VR体験



■ 渡り初めのようす



このたび、秋田城跡の史跡公園と歴史資料館を結ぶ連絡橋が完成し、地域の関係者などを招いて式典が開催されました。

また、当時の秋田城の門や堀、政府の建物などの再現映像をAR・VRで体験できるサービスも開始しました。

秋田城跡は古代を感じることができる素敵な場所なんだ。史跡公園と資料館にぜひ足を運んで見てね。待ってるよ!



### 秋田城跡の各種事業やイベントに関するお問い合わせは

秋田市立秋田城跡歴史資料館

〒011-0907 秋田市寺内焼山9番6号  
[TEL] 018-845-1837 [FAX] 018-845-1318

【開館時間】午前9時～午後4時30分

[E-Mail] ro-edac@city.akita.lg.jp

【休館日】年末年始(12月29日～1月3日)

[URL] <https://www.city.akita.lg.jp/kanko/kanrenshisetsu/1003616/index.html>



# あきまる 秋麻呂くん 通信

『秋田城』と、みんなの絆をつなぎたいから。

秋田城跡発掘調査成果特集  
— 秋田城跡発掘調査50周年記念 —



令和4年7月29日秋田城跡歴史資料館



あきまる 秋麻呂くん

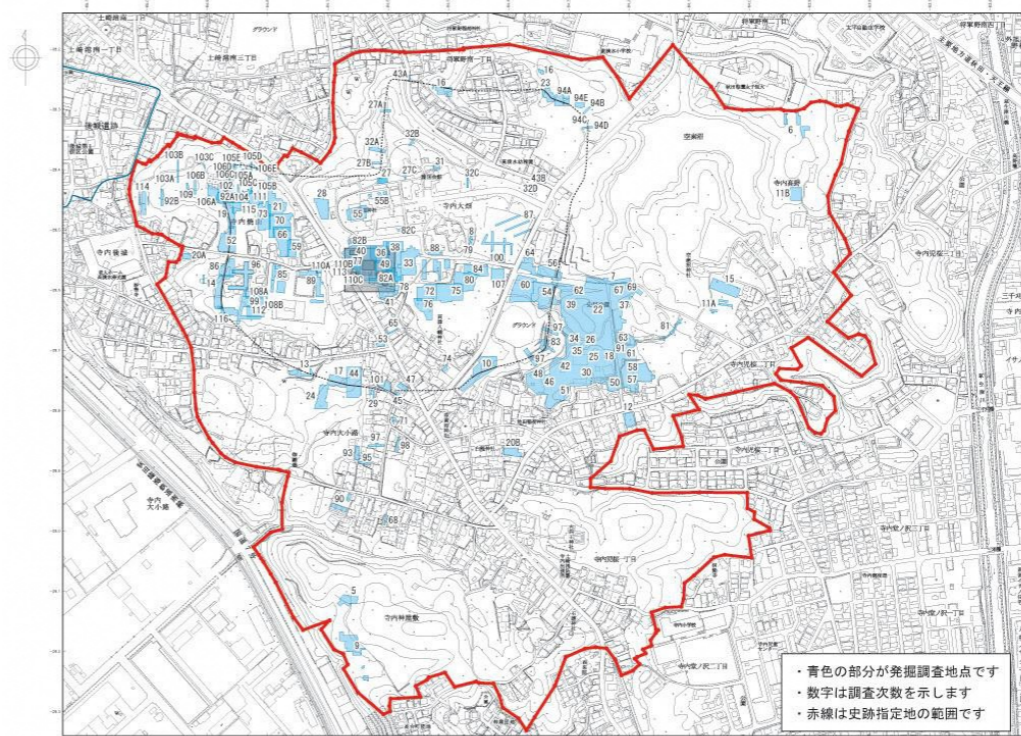
秋麻呂くん通信は、皆さんに秋田城のことをよく知ってもらい、秋田城との絆を深めてもらうための情報誌です。

今回は、発掘調査の開始から50年の節目に当たることから、「秋田城跡発掘調査成果特集」というテーマで、今までの発掘の成果を広く紹介しています。

## 最北の古代城柵官衙遺跡「秋田城」とは？

秋田城跡は秋田市寺内に所在する国指定史跡で、奈良～平安時代にかけて律令国家によりこの地に置かれた大規模な役所の跡です。歴史書『続日本紀』天平5年(733)条には「出羽柵を秋田村高清水岡に遷し置く」との記載があり、出羽柵を前身として秋田城の歴史が奈良時代から始まったことがわかります。

昭和34年から44年の国営調査、昭和47年から現在に至るまで秋田市による発掘調査が行われ、令和4年度(117次調査)は、秋田市による発掘調査開始から50年の節目に当たります。その間、歴史的に貴重な遺物や重要な遺構が数多く発見されており、その成果は資料館で常設展や企画展として公開展示されています。



50年もの間発掘調査が行われ、今に至っているんだね!



■ 秋田城跡発掘調査位置図

・青色の部分が発掘調査地点です  
・数字は調査回数を示します  
・赤線は史跡指定地の範囲です

## やげやま 焼山地区

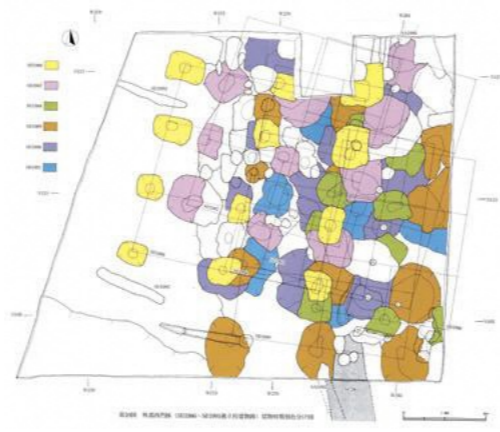
焼山地区からは、秋田城最大の門である2階建ての外郭西門跡が見つかり、また、立派な城壁(築地塀)も非常に良い状態で発見されています。

秋田城は海を通じた交流・交易を北方や大陸と行っていたと考えられます。西門は、海からやって来た人々や積み荷を迎え入れる、重要な門だったのでしょ。

現在の資料館周辺の建物群跡は巨大な倉庫群と考えられ、交易品などを保管していたと想定されています。



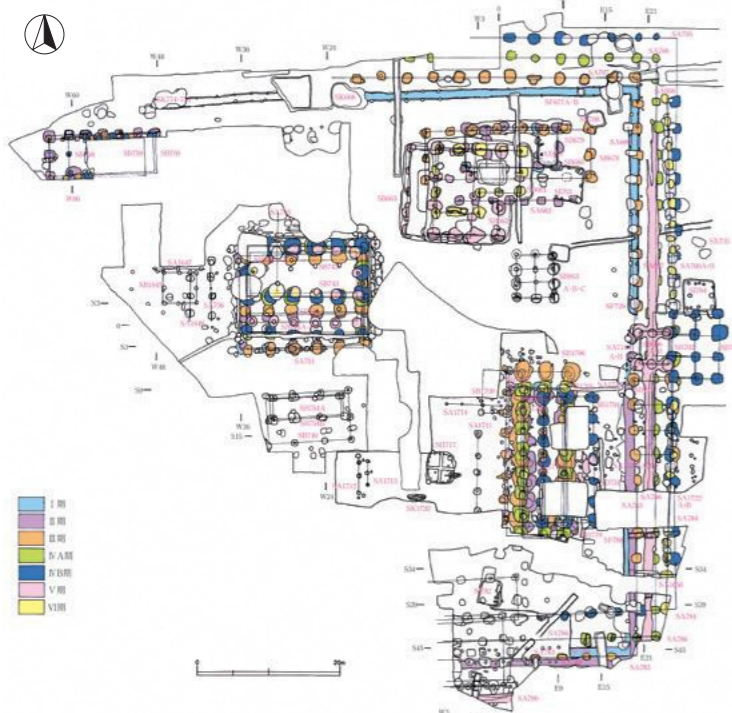
■焼山倉庫群の遺構配置  
21次(昭和52年)、59次(平成4年)、66次(平成8年)等の発掘調査



■外郭西門の柱跡の変遷  
場所をずらしながら、ほぼ同位置に6回の建て替えが行われました。  
92次(平成20年)、102次(平成25年)の発掘調査

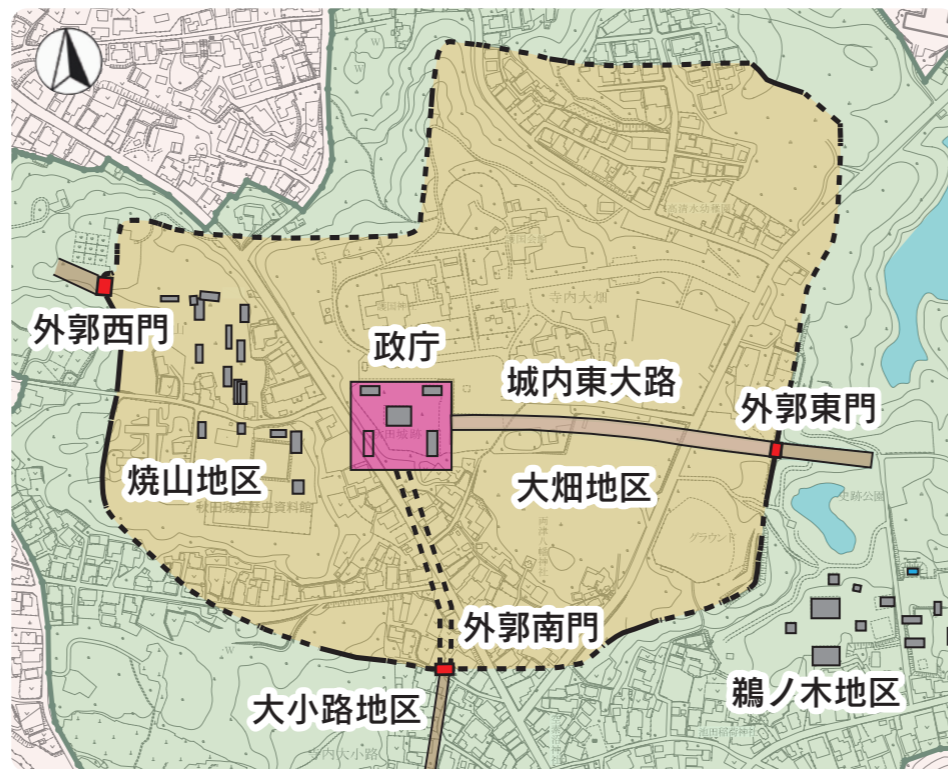
## せいりょう 政庁

政庁は重要な政務や儀式などが行われる、秋田城の中心となる施設です。塀で囲む構造や、中心建物である正殿の前面に広場を設け、その左右に脇殿を対象に配置する形も、都の宮殿と同じ造りが採用されています。明治時代の道路の開削により失われた南西側を除き、現地に政庁東門や瓦葺きの築地塀、建物跡などが復元されています。



■政庁の遺構配置図  
調査では正殿跡柱穴等の跡が整然と並んで検出されました。  
36次(昭和57年)、40次(昭和59年)、49次(昭和62年)、77次(平成13年)、82次(平成15年)の発掘調査

立派なお役所があったんだね!



■秋田城の基本構造

## おおこうじ 大小路地区



■外郭南門跡 101次(平成24年)の発掘調査

## おおはた 大畑地区

### 城内東大路と工房跡



政庁から外郭東門に向かう道を城内東大路と言います。調査により確認された幅約12mの奈良時代の道路跡を元に、城内東大路を復元しています。

大路付近の発掘調査で、この一帯には鉄や漆の製品を生産する工房が集中して見つかりました。秋田城における一大生産拠点だったようです。資料館で展示している非鉄製小札甲は、この大畑地区の工房跡から出土しました。

■政庁東門と復元された城内東大路  
33次(昭和56年)、84次(平成16年)、88次(平成18年)、107次(平成28年)の発掘調査

## うのき 鶉ノ木地区(城外)



■鶉ノ木地区の概略図

外郭東門から城外側に出た鶉ノ木地区からは、秋田城に付属する重要な施設が見つっています。

鶉ノ木地区は復元整備が進み、史跡公園のメインとなっています。

秋田城における祭祀の場である古代沼、井戸などが復元されています。

### かわや 古代水洗厠舎



鶉ノ木地区東側の沼地岸からは、全国的にも類例のない立派な古代の水洗トイレが発見されました。便槽の土を調べると、ブタ食を習慣とする人のお腹にいる寄生虫の卵が見つかりました。当時日本ではブタ食は行われておらず、来航の記録などから、大陸から訪れていた渤海使が使用した可能性があると考えられています。



■上: 水洗厠舎跡の発見の様子  
63次(平成6、7年)の発掘調査  
■下: 復元された古代水洗厠舎